

【気づきから支援へ ～個別の教育支援計画作成、個別の指導計画作成に向けて～】



学級で
子供が困っている
教師が悩んでいる



ステップ1
学級担任が支援するために

ポイント

- ・困っていることの整理
- ・子供についての情報収集
(本人・保護者の願い)
- ・具体的な支援の方法の検討

子供の困っている様子等を整理します。担任ができる支援内容を話し合います。
(例：シート1の作成)

ここが大切です!

- ・コーディネーターや他の先生方に相談しながら行います。

ステップ2
校内で支援するために
(校内委員会での検討)

ポイント

- ・子供の現状と支援の検討
- ・校内リソース(資源)の確認
- ・各リソースで支援できることの検討法

校内委員会で、支援者と支援内容を話し合います。
(例：シート2の作成)

ここが大切です!

- ・校内リソースを明確にし、それぞれができることを検討します。

個別の教育支援計画作成 **必ず本人及び保護者の同意が必要で**

ステップ3
個別の教育支計画の作成
校外の機関と連携して
支援するために

ポイント (外部機関を含めた校内委員会での検討)

- ・必要としている支援の検討
- ・地域のリソース(資源)の確認
- ・助言を踏まえ校内リソースの再検討

保護者と連携し、地域の関係機関を交えた校内委員会や支援会議を行います。この会議で、話し合いのツールとなるのが「個別の教育支援計画」です。
(例：シート3①、②のいずれか若しくは両方の作成)

ここが大切です!

- ・校内、地域のリソースに何を求めるかを明確にして検討します。

個別の指導計画作成

- ・個別の教育支援計画を基に
指導目標や指導内容の計画を具体的に表記します。

※個別の教育支援計画については、「関係法規・通知等」の「個別の教育支援計画の参考様式について」(令和3年6月文部科学省)も参照してください。

書きにくい枠は、他の先生方に相談して、一緒に考えてみましょう。

本人・担任が 困難に思っていること

本人：いつも友達から注意されてばかり。誰も話を聞いてくれない。

担任：学習中や休み時間、友達に手出しや口出しをすることが多く、トラブルになりやすい。

太線枠に記入しましょう。その他の枠は、気が付いたときや話し合って書き込みましょう。
※空欄があっても良い

それは、いつ、どこで、どれくらいあるの？

- ・教室では、特に国語と算数の計算以外の時間。
- ・休み時間は、校庭でドッチボールや鬼ごっこをしているとき。
- ・ほぼ毎日起こっている。

なぜ、そのことが起こるのか？(どんなとき?)

- ・学習中は、勉強がわからない(苦手な)時、友達に手出しや口出しをしているのではないか。
- ・ゲームのルールや友達との正しい関わり方を知らないのではないか。

子どもの様子

コミュニケーションは？

- ・落ち着いているときは、良好。
- ・特に、教師との1対1のコミュニケーションはとりやすい。

好きなこと、得意なことは？

- ・誰とでも気さくに話すことができる。
- ・計算、歌、工作、外遊び、先生のお手伝い。

指示を理解している・実際に行える？

取りかかりが早いので、理解できているように思えるが、最後まで続かない。聞き返しが多い。

2年1組

Aさん
について

嫌いなこと・苦手なことは？

漢字書き取り、音読、算数の文章題、100マス計算(量が多い課題)、整理整頓、集会、掃除

学習面は？

特に、国語と算数の時に離席が多い。体育でのルール理解が難しい。

本人の思い・願い

- ・友達と仲よく遊びたい。
- ・勉強ができるようになりたい。

友達は？(友人関係等)

BさんとCさんと一緒にいることが多い。Dさんの言うことは比較的落ち着いて受け止める。

家庭での様子は？(お手伝い・余暇・学習等)

余暇は主にゲームをして過ごしている。宿題はやらない。兄弟げんかが多い。

保護者の思い・願い

- ・落ち着いて勉強してほしい。
- *合理的配慮の申出があった場合は申出内容等を記載する。

その他

図書室と保健室では、落ち着いていることが多い。
千葉県の実動チェックリストによると、「聞く」「話す」「計算」「コミュニケーション」は他と比べて高いが、「書く」「衝動性」は特に低い。

コーディネーターや他の先生方と話し合ったこと

Aさんの席を、比較的落ち着きのある友達や、Aさんが仲がよいと思っている友達と並べてはどうか？
トラブルが起きそうな場面では、トラブルが起きる前にどう行動したらよいか、本児に伝えてはどうか？
トラブルが起きていないときに、ほめることが有効。校内支援体制を作って、Aさんのサポートにあたる。

必要な支援は？

- ・座席位置をDさんの横にする。
- ・できそうな行動目標を伝え、うまくできているときにその場でほめる。
- ・Aさんにできそうな量の課題を、確認した上で与える。
- ・学級での認め合い活動を増やす。
- ・保護者には、本児の変化を具体的に伝える。

支援を行ってどうだった？(評価)

教室でのトラブルは、若干減ってきた。教室以外では、まだトラブルが多い。
継続的な学習への取組は難しい。
友達からの注意は減ってきた。

今後どのような支援が必要か？

- ・現在行っている支援を継続する。
- ・校内支援体制による、全校職員でのサポート。
- ・Aさんが学習活動に参加するための、個別支援。

主な課題となっていること

シート1の情報を基に校内委員会でシート2の内容を検討します。

- ①できる課題には取り組むようになったが、新しい課題や苦手な課題については、取り組みに消極的。
- ②教室でのトラブルは減ってきているが、教室以外ではトラブルが多い。

①から⑩で必要な枠に記入しましょう。
※空欄はそのままが良い

支援の基本方針 (校内でどんな支援が必要か?) *合意形成された合理的配慮についても記載する

- ・担任以外の職員からのサポート
- ・個別の支援とその人的配置
- ・みんなが認められる学級経営

【合理的配慮について】

- ・学習に気持ちが向くように、細目に学習に対する個別の指示をする。
- ・学習に集中できる時間を延ばすため、興味あることを学習に取り入れたり、ペア学習やグループ学習などの場面を設定したりするなど手立てを工夫する。

校内でこんな支援ができる!

① 学級担任の支援

よい行動をほめる。本人のできそうなプリント等の用意。学級全体での認め合い活動。

② コーディネーターの支援

学級担任への情報提供。全校職員への共通理解、共通行動の啓発。他機関への連絡調整。

③ 管理職 (含む教務主任) の支援

Aさんの状況把握。サポートできる職員の調整 (空き時間等) 交換授業の実施

④ 養護教諭の支援

気持ちが不安定になっているときのサポート (落ち着けるための場の提供 ただし担任からの連絡後)

2 年 1 組
A さん
の目標について
(校内支援体制)

目標

- ・友達とトラブルなく生活する。
- ・苦手な学習にも取り組む。

⑤ T.T・小グループでの支援

Aさんのいるグループを、一方のグループより少人数にする。

⑥ 教科・専科担任の支援

空き時間を利用して、Aさんのサポートに入る。

⑦ 特担等による支援

具体的な支援について、担任等と検討する。プリント等、Aさんの実態に応じた教材についての情報提供。

⑧ 通級指導教室の支援

現在は利用していない。

⑨ スクールカウンセラー等の支援

本校にはない。

⑩ その他 (その他の学級担任、職員)

空き時間を利用して、Aさんのサポートに入る。休み時間等のAさんの様子を担任に伝える。Aさんを認める声かけをする。

それぞれの支援を行ってみてどうだった? (校内支援に対する評価)

- ①…できる課題については、取り組もうとすることが多くなった。本人が難しいと感じるものについては、あまりやろうとしない。友達からAさんを認める発言が出てきた。トラブルは、減ってきている。
- ②③⑤⑥⑩…全職員がAさんを知り、共通理解ができたことで、Aさんへの対応が統一された。教室以外の場面でも、トラブルが減り、笑顔で過ごせることが増えてきた。
- ④…イライラしたときや気分が落ち着かないときに、担任の促しにより保健室に行き、話を聞いてもらい、落ち着いてから教室に戻ることがあった。
- ◆学習の集中時間や学習活動への参加、学習の定着は、十分と言えない。まだ些細なことからトラブルになることがある。

今後どのような支援が必要か?

引き続き行う支援

現在行っている支援を継続する。

新たに必要とする支援

- ・Aさんに合った学習の仕方を提供する。
- ・友達との良好なコミュニケーションの仕方を学習する。
- *他機関との連携 (個別の指導計画作成のための助言)

シート1・2の情報を
基に校内委員会でシート
3の内容を検討します。

主な課題となっていること

- ・学習活動への参加と学習の定着のために、Aさんに合った学習方法の提供
- ・友達とより仲よく生活できるための、情報と手段の提供

必要な枠のみ記入し
ていきましょう。
※空欄があっても良い

校内で行っている支援（現状の確認等）

- ・よい行動をほめる。（担任中心、全職員）
- ・学級内で認め合いをする機会を増やす。（担任）
- ・指示を理解できたか確認する。
- ・Aさんへの課題の精選。（担任、コーディネーター）
- ・学級での個別支援（TT、サポートに入っている教師）
- ・落ちつくための場（保健室）
- ・教室以外でのAさんの様子を担任に伝える。（全職員）
- ・R.O.Oより、担任以外が学習をサポートする時間を減らす。

校外の機関に依頼する支援

- ・よりよい行動を増やすための助言やトレーニング。
- ・家庭でのよりよい対応。
- ・学校への情報提供(学習の仕方や身に付け方、行動面の改善の方法)
- ・集団の中で適切に行動するための助言・トレーニング。

合意形成された合理的配慮の
提供についての状況について
も記載する。

校外の機関と連携した支援

①教育関係機関

〇〇教育センター
TEL △△△-□□□-〇〇〇〇
担当 〇〇先生
Aさんと保護者に対するカウンセリング及び療育支援

②医療関係機関 R.O.O加筆

〇〇病院 TEL 〇〇〇-△△△-□□□□
主治医 〇〇先生
Aさんに対する医療相談とトレーニング(3ヶ月に1回) R.O.O服薬開始

③保健・福祉関係機関

A さん
の支援について
(地域の関係機関)

④家庭・地域生活

父母…生活の中で、電話や直接人と会った
ときの対応の仕方を教える。学習サポート。
サッカークラブ…クラブの仲間とうまくコ
ミュニケーションがとれるよう支援。ルー
ル理解。

⑤特別支援学校

〇〇特別支援学校
TEL □□□-〇〇〇-△△△△
特別支援教育コーディネーター
Aさんの学校生活支援（学校への情報提
供と助言、心理検査）

⑥その他（通級指導教室）

R.O.O加筆
〇〇小学校
TEL △△△-□□□-〇〇〇〇
通級指導教室担当
ソーシャルスキルトレーニング（週1回）

支援を行ってどうだった？（評価）

- ・苦手な学習に取り組むことが増えてきた。友達とのトラブルも減少傾向にある。（R.O. ○）
- ・友達とのトラブルが、減っている。落ち着いて学習に取り組む時間が増えている。家庭でも落ち着いてきて、宿題をやってくることも増えてきた。（R.O. ○）
- ・友達と仲よく遊ぶようになった。トラブルがあっても、興奮した後、落ち着くために必要な時間が短くなった。（R.O. ○）

卒業後の進路先へ

※押印の有無については、各市町
村教育委員会の規定による

このシートの情報を支援関係者と共有することを同意します。

令和 年 月 日 () 保護者氏名

印

【個別の教育支援計画 様式例 シート3-②】

作成年月日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入者 〇〇 〇〇

担任 〇〇 〇〇

クラス	(年 組)	生 年 月 日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
ふりがな 氏 名		性 別	男 ・ 女
ふりがな		電 話 番 号	0 4 3 - 〇〇〇 - 〇〇〇〇
保護者氏名		緊 急 連 絡 先	0 9 0 - 〇〇〇 - 〇〇〇〇
住 所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市 〇〇〇		
前教育相談 (連絡先)	特別支援学校教育相談担当 〇〇〇 〇〇 〇〇病院精神科 担当 〇〇〇 〇〇	連絡先 〇〇〇-〇〇〇〇 連絡先 〇〇〇-〇〇〇〇	
諸 検 査 の 記 録			
障害者手帳	有 ・ 無 ()		
将来の生活・現在の生活についての希望 (本人や保護者)		合意形成の内容(過程)	
保護者が、直接記入することも良いでしょう。		【主な合理的配慮の内容】 合意形成できない場合でも、保護者との話し合いの足跡を記録しておきましょう。	
支 援 内 容 と 方 法		押印の有無については、各市町村教育委員会の規定による。	
合理的配慮の内容を踏まえた支援内容となるように留意します。子供が困っている時に見られる様子(しぐさ)や言動、子供のよさを生かそうとする視点で記入すると良いでしょう。		【日時・場所・保護者名】 年 月 日()にて母と面談 印	
保 護 者 ・ 関 係 機 関 と の 連 携 状 況			
家 庭 生 活	教 育 関 係 機 関	地 域 生 活	医 療 そ の 他 関 係 機 関
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族構成(〇人家族) 〇〇・〇〇・〇〇 ・ 子供の養育は、主に〇〇である。 ・ 食事においては、〇〇〇〇が苦手 ・ 余暇活動では、地域の〇〇に参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇市立〇〇中学校 担任:〇〇先生(〇部所属) ・ 〇〇児童相談所 〇〇について、継続相談中である。 ※心理療法に変更(〇〇年〇月) 心理的安定を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇市社会福祉課 地域での子育て支援団体〇〇で指導を受ける。自己有用感の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇病院精神科 〇〇医師 ※一時中止(〇〇年5月) 月1回定期通院中
【評価】	子供の变化等に応じて、その手立てを検討し、加除修正していきます。それまでの様子が分かるように二重線と赤字等で記入すると良いでしょう。		保護者と学校、地域、関係機関等が目標達成にむけて「誰が」「どのような」支援を行うのかを話し合って記入することで、それぞれの役割を明確にすることができます。
合理的配慮の内容を含め、これまでの取組の成果や課題を整理し、継続が必要な事項、再検討が必要な事項を明確にしておく、引き継ぎの際に効果的です。		有効だった手立て等を中心に記入すると良いでしょう。	

この計画に記載されている情報を支援関係者と共有することに同意します。

令和 〇〇年〇〇月〇〇日

関係機関との連携について、保護者の了解を得ること、また、個人情報として、取り扱いに配慮が必要です。

保護者氏名 〇〇 〇〇〇 印

押印の有無については、各市町村教育委員会の規定による。